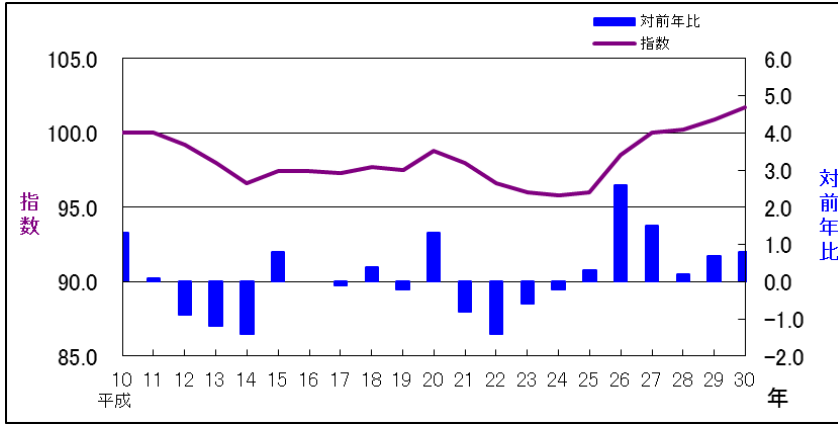
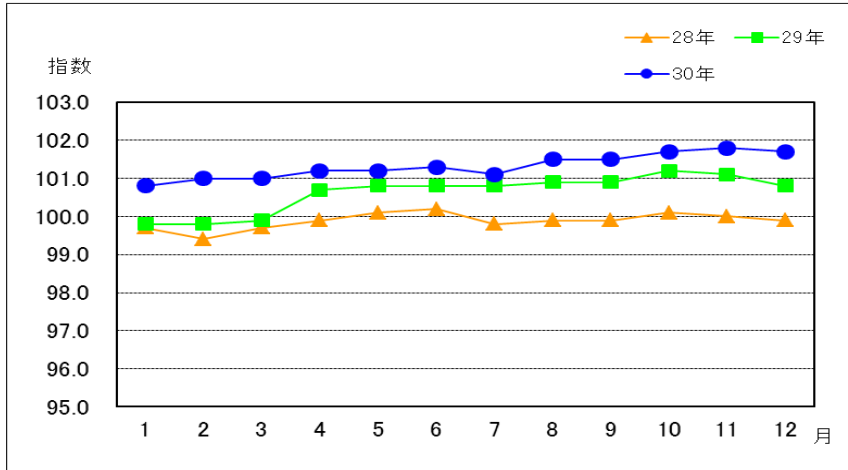


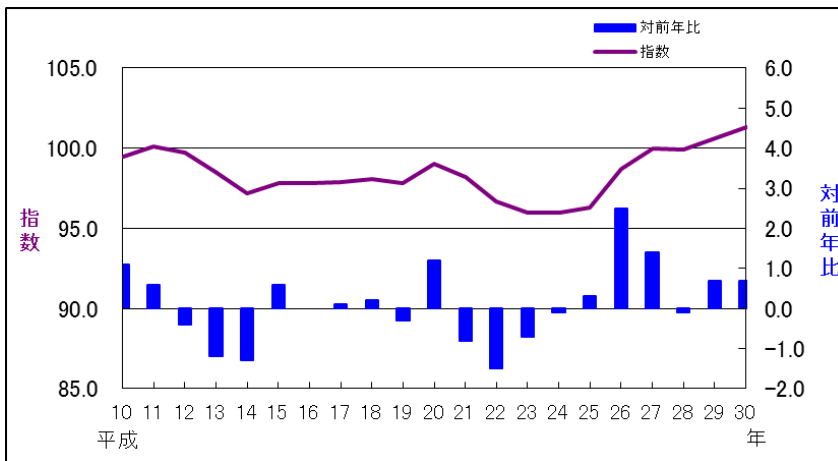
(図-2) 総合指数と対前年比の動き



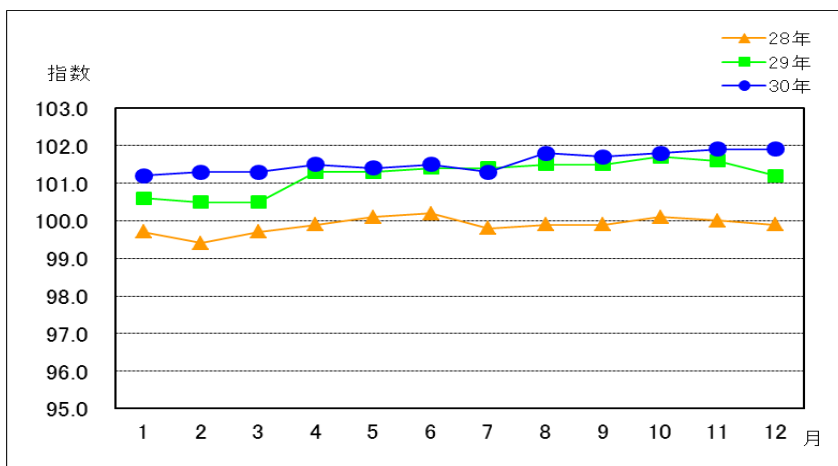
(図-3) 生鮮食品を除く総合指数の動き



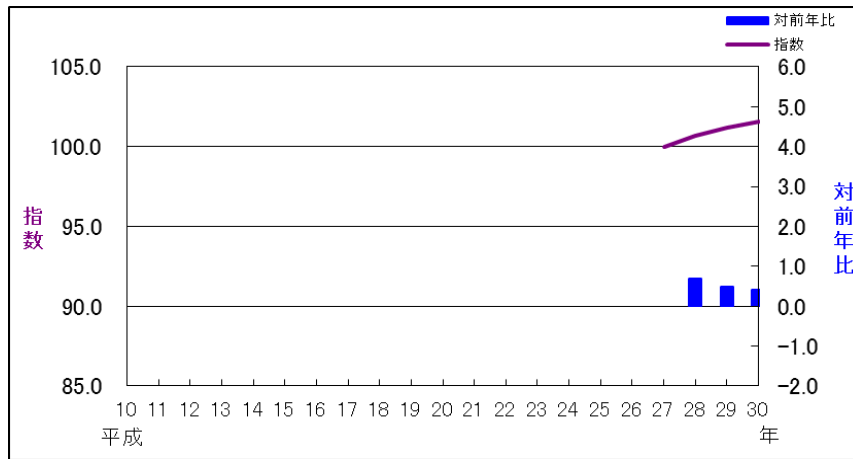
(図-4) 生鮮食品を除く総合指数と対前年比の動き



(図-5) 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



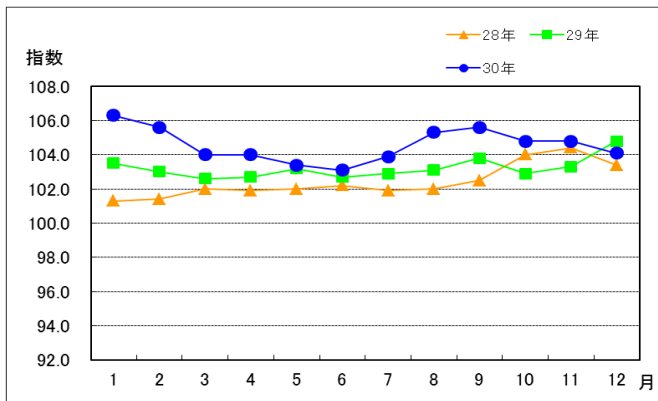
(図-6) 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数と対前年比の動き



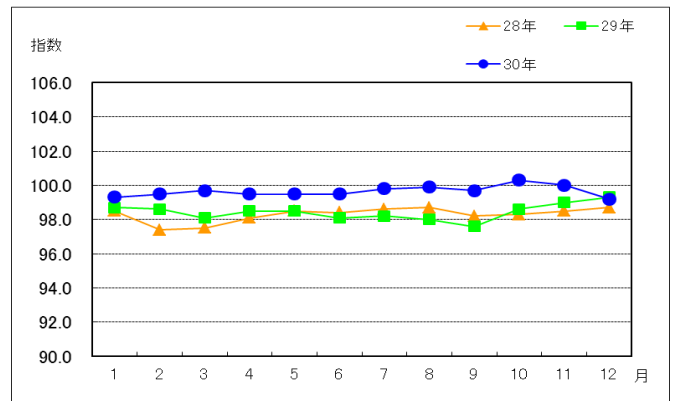
◎総合指数に寄与した主な費目(10大費目)

◆前年を上回って推移した費目

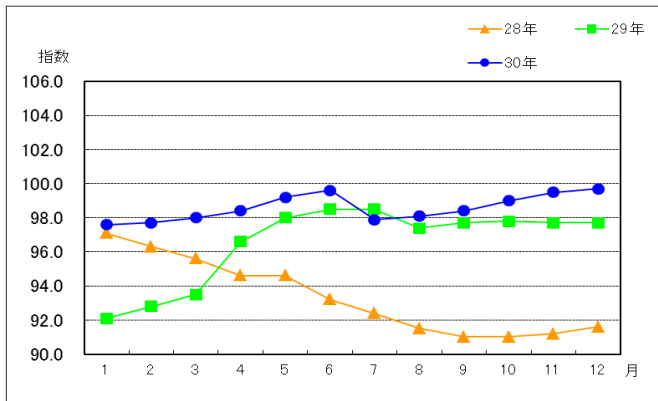
(図-7) 食料指数の動き



(図-8) 交通・通信指数の動き

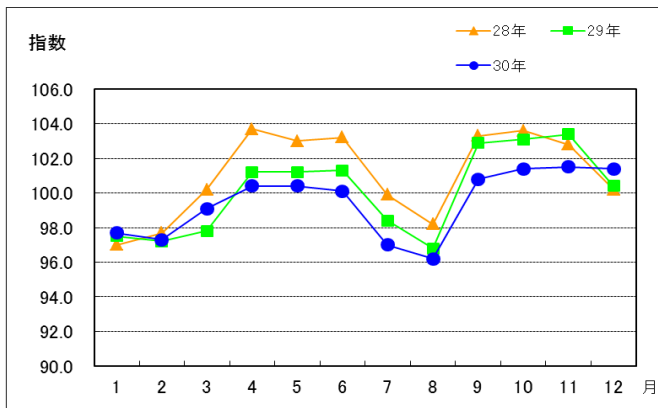


(図-9) 光熱・水道指数の動き

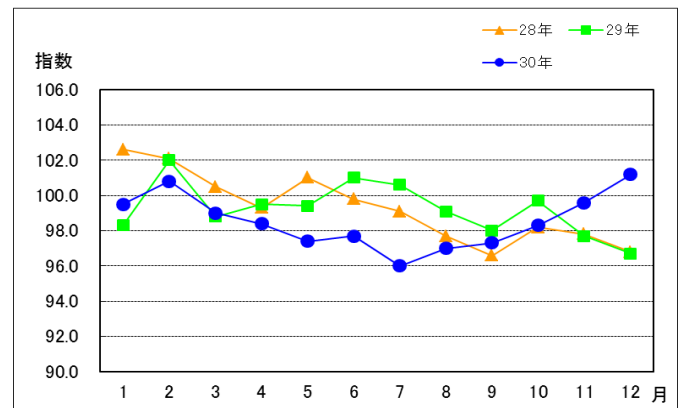


◆前年を下回って推移した費目

(図-10) 被服及び履物指数の動き



(図-11) 家具・家事用品指数の動き



3. 総合指数の前年比に対し寄与の大きかった中分類指数等

● 上昇した中分類指数等の主な項目（寄与度順）

自動車等関係費[交通・通信]	(+)	3. 1%
生鮮野菜[食料]	(+)	4. 5%
肉類[食料]	(+)	2. 4%
ガス代[光熱・水道]	(+)	4. 2%
保健医療サービス[保健医療]	(+)	2. 8%

● 下落した中分類指数等の主な項目（寄与度順）

通信[交通・通信]	(-)	1. 6%
補習教育[教育]	(-)	2. 5%
洋服[被服及び履物]	(-)	1. 6%
家賃[住居]	(-)	0. 2%
理美容用品[諸雑費]	(-)	1. 4%

注) 寄与度：総合指数の上昇に対して各費目がどれだけ影響したかを示します。

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前年比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[]内は、10大費目名です。

注) 生鮮食品（生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物）については、小分類指数です。

4. 10大費目指数と前年比および寄与度

平成27年=100

10大費目名	指数	前年比(%)	寄与度	寄与の大きい項目 (中分類等・対前年上昇率)
食料	104.6	1.3	0.35	生鮮野菜 4.5
住居	100.2	0	0.00	設備修繕・維持 1.2
光熱・水道	98.6	2.1	0.15	ガス代 4.2
家具・家事用品	98.5	-0.7	-0.02	室内装備品 -4.3
被服及び履物	99.4	-0.7	-0.03	洋服 -1.6
保健医療	103.8	1.3	0.05	保健医療サービス 2.8
交通・通信	99.7	1.2	0.17	自動車等関係費 3.1
教育	104.2	0	0.00	補習教育 -2.5
教養娯楽	102.3	0.9	0.10	教養娯楽サービス 0.7
諸雑費	101.6	0.2	0.02	理美容用品 -1.4

注) 寄与の大きい項目は、各10大費目に対する寄与度が最大の項目のみ掲載しています。

【参考】近年の総合指数の動き

平成27年は、食料が年間通して前年及び前々年を大きく上回る水準で推移しましたが、一方で交通・通信が4月以降に、光熱・水道が5月以降に前年を下回る水準で推移しました。また、総合指数は1.5%上昇しました。

平成28年は、台風等の天候不順により生鮮野菜の価格が高騰した影響を受け、10月および11月の食料指数が前年および前々年に比べて大きく上昇しました。一方、光熱・水道は2月以降に、交通・通信は年間通して前年を下回って推移しました。また、総合指数は0.2%上昇しました。

平成29年は、光熱・水道は4月以降、教育は年間を通して前年および前々年を上回って推移しました。一方で被服及び履物は2月から10月にかけて前年を下回って推移しました。また、総合指数は0.7%上昇しました。